

製品名: ATG3 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe01690**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.51mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	Calculated MW: 36 kDa; Observed MW: 40 kDa

抗原情報

遺伝子名	ATG3
別名	APG3; APG3L; PC3-96; APG3-LIKE
遺伝子 ID	64422
SwissProt ID	Q9NT62
免疫原	ヒト ATG3 の合成ペプチド

背景

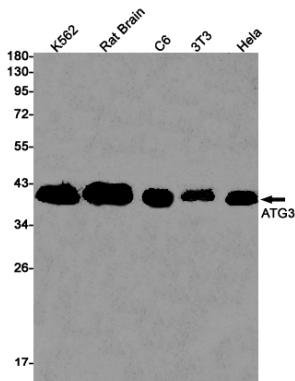
オートファジーとミトコンドリア恒常性維持に関与する E2 様酵素。ATG8 様タンパク質（GABARAP、GABARAPL1、GABARAPL2、

または MAP1LC3A) とホスファチジルエタノールアミン (PE) の結合を触媒する。ATG12 自身への結合を触媒し、ATG12 の ATG3 への結合はミトコンドリア恒常性維持に関与するが、オートファジーには関与しない。ATG7 (E1 様酵素) は ATG3 と E1-E2 複合体を形成することでこの反応を促進する。

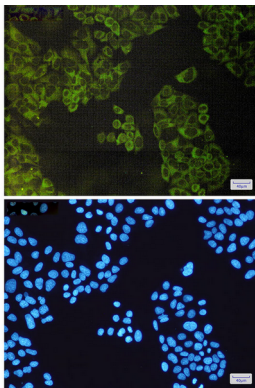
研究分野

細胞生物学

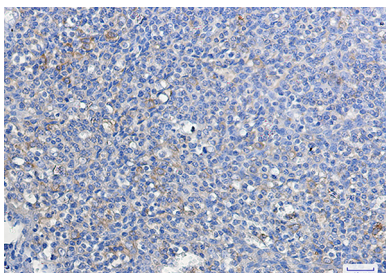
画像データ



ATG3 抗体を使用した K562、ラット脳、C6、3T3、Hela 溶解物中の ATG3 のウエスタンブロット分析。



ATG3 抗体と DAPI (青) を用いた HeLa 中の ATG3 (緑) の免疫細胞化学分析



ATG3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学染色。抗原賦活化には、高圧高温クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を使用した。